



2018年6月1日

継承センターのご家族の皆さまへ

ワシントン日本語継承センター（継承センター）理事会では毎年、当組織の現状、運営、今後の計画についてご報告しております。2017-18年度は、108名の子供たちと11名の保護者生徒が在籍しました。ゼネラルマネージャーと教師陣（今年度はカリキュラムディレクター1名、教師11名、ティーチングアシスタント5名、音楽ディレクター1名で構成）が、8クラスおよび大人向けプログラムを提供しました。さらに、財務担当1名、ウェブマスター1名、入学事務アシスタント1名を雇用しています。

当センターの在籍生徒数は年々増加しているため、クラス当たりの生徒数を10～15人に抑え、教師：生徒数の比を1:7に維持するよう、人員拡充に留意しております。継承言語を学ぶ子供たちには、小人数のクラスで、個別のサポートが効果的です。継承センターには幸いにも、この2017～18年度、国際交流基金・ロサンゼルス日本文化センター（Japan Foundation of Los Angeles）から\$10,000の件費助成金が授与されました。この多大なご支援により、教師陣を数人分拡充することができ、教室での教育に直接的な効果が生じました。

8つのホームルームクラスで構成された子供たちのクラスは、生徒の全般的な日本語スキルを高め、日本と日本文化の知識と経験を深めるよう、教師・アシスタント陣が指導しています。低学年クラスの生徒は授業時間を通して同じ教室で授業を受け、中・高学年クラスはターゲットクラスに振り分けられてそれぞれのスキルと語彙強化に重点を置いた授業を受けています。今年度は「交通」というテーマのプロジェクトを通じて、生徒たちの日本語スキル強化をはかりました。日本のJR、およびユナイテッド航空の講師によるワークショップには、全生徒が参加しました。また高校生のクラスでは、内外の審査員の前で、グループプロジェクトの発表を行いました。

継承ファミリーおよび卒業生を対象とした大人向け日本語プログラムの提供は、今年で3年目となりました。このクラスは、ご家族全体で日本語と日本文化の学習に関わっていただくことにより、継承言語教育という継承センターの役割を補完するものです。当理事会では引き続き、日本語を学びたいと考えるすべての保護者の方々に提供できるよう、大人向けプログラムを拡充していきたいと考えております。

運動会や、ホリデーコンサート & ポットラック、餅つき、さくらまつりのコンサートには、多くのご家族の方々においでいただきました。たくさんの方々が卒業生もこれらのイベントに参加してくれていることは、この上ない喜びです。これらのアクティビティや毎年恒例のイベントは、計画と準備に多大な労力がかかります。



教師陣と保護者ボランティアの皆様の多大な時間と労力によって、これらが実現しています。毎回感謝をお伝えする努力はしておりますが、ここであらためて、スタッフとボランティアの皆さまに深く感謝申し上げます。継承センターがこのような素晴らしい場となっているのは、ひとえに皆さまのご尽力のたまものです。来たる6月9日の終業式・学芸会・ポットラックに、皆さまのお越しをお待ちしています。

今年、生徒会がさくらまつりテント運営などの活動を通じて資金調達を達成したことを、特に誇らしく思います。継承センターのテントには何百人もの人々が訪れ、DCエリアの日本人・日系人コミュニティに広く継承センターの名前を知らしめるのに役立ちました。また継承センターは今年初めて、ジュニア・ジャパン・ボウルに参加し、各レベルで入賞を果たしました。これらの対外的活動を通じて、継承センターは、日本大使館、ワシントンDC日米協会、Japanese American Citizens League、さくら幼稚園などの外部団体とも強いつながりを築いています。

継承センターの教師陣および理事会は、日本語継承語教育の指導スキル強化をはかる機会を常に求め続けています。2017-18年度は、Community-Based Heritage Language Schools Conference（アメリカン大学で開催）、J.LIVE Talk（ジョージワシントン大学で開催）、American Association of Teachers of Japanese Conference（DCで開催）、UCLA's Third International Conference on Heritage/Community Languages（カリフォルニア州ロサンゼルスで開催）の4つの学会において、参加や発表を行いました。

2004年の設立時に3クラス・生徒数35人で始まった継承センターは、今や8クラス、生徒数100人超にまで成長しました。この間、経費は増加したものの、授業料については良心的な額を維持してきました。来年度の授業料基本額は今年と同じ\$1,370となりますことを、ここにお知らせいたします。きょうだい割引と一括払い割引、および大人向けプログラム受講者のインセンティブは、引き続き適用されます。下記に、2017-18年度の継承センターの運営予算実績をまとめております。

継承センターはコミュニティのニーズにお応えするために設立されました。当理事会では、入学が許可されたすべての家庭が、入学できるようにしたいと考えています。経済的な懸念が入学の障害となることは望んでいません。当センターができる範囲で、必要のあるご家庭には学費援助をご利用いただけるようにしています。原則として、適用には連邦の貧困基準の3倍の収入額をガイドラインとしていますが、ケースバイケースで酌量しています。学費援助に関する詳細は、継承センターの理事や財務担当者、ゼネラルマネージャーに遠慮なくお尋ねください。



継承センターコミュニティは15年間にわたって、当センターを立ち上げ育ててきた人々の、ビジョンと労力により支えられてきました。越谷直弘、ケリー・リチャーズ、ジェフ・シュウォーツの3名の継承センター理事は、この6月で任期を終了します。また長きにわたってご指導いただいた浜田万里先生、佐藤弥生先生、吉田由美子先生は、9月の新学期にはいらっしやいません。

これらの方々には先見の明を持ち、継承センターのような場、すなわち、継承日本語の学習者が日本を愛する気持ちを保ち、多言語・多文化のアイデンティティを自ら見出すことができるような場の必要性を、早くから見出していました。継承ファミリーが日本との絆を保てるよう、長年にわたってたゆまぬ貢献をしてくださったこれらの方々には、深い感謝の念を捧げたいと思います。皆さんの叡智と経験は、私たちにとって大きな存在でした。

当理事会は、ベントウ阿紀子先生、マーク・ヒッツィク氏、吉川恵夫氏の3名の理事を新たに迎えます。3名とも、今月から任期が始まります。理事会への参加をご快諾いただき、感謝申し上げます。

継承センターはこれからも成長し続け、変化し続けます。けれども、生徒たちが日本語と日本文化を生涯にわたって大切にできるよう育む、という継承センターの使命は変わりません。継承センター理事一同、継承センターの業績と発展を誇りに思います。これからもコミュニティに貢献し、生徒とご家族の皆さんと協力し合い、今後も向上と発展し続けていくのを、楽しみにしています。ご質問やご意見、ご提案などは、ぜひご遠慮なくお寄せください。

今後ともよろしく願いいたします。

継承センター理事

マイケル・エアマート

森エジソン

ジェフリー・シュウォーツ

浜野祥子

ケリー・リチャーズ

ジョン・トベ

越谷直弘

デボラ・サウリ

椿谷茂



継承センター運営予算

	2017-18 実績 + 予測 6-8月
収入 (単位:US\$)	予算
授業料	128,669
入学金	1,008
助成金	10,000
寄付	585
ファンダーレージング	596
利息	27
試験受験料	31
教科書/イヤーズブック代金	2,256
その他の収入	468
小計	143,640
支出 (単位:US\$)	
給与	82,754
賃借料	29,060
消耗品経費	5,973
保険	4,796
一般運営費/料金	2,122
技能開発	805
広告	132
試験受験料	702
教科書/イヤーズブック代金	2,121
その他の費用	4,327
小計	132,792
繰り越し金	10,847